

夜間学校 ニュース

1989年 4月 14日
西成区萩之茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を！

みんなの 会館

みんなで作ろう

毎週金曜日
夜七時より
市民館三階

三人よれば 何とかの 知恵

まず お詫び

そして

労働者と

労働者のちがいは？

まずは、お詫びから...
先週の夜間学校を休んで、
生野で開かれるアジアから
の出稼労働者についての集
会に合流することは、ニ
ースで知らせた。
しかし、昼・仕事に行っ
た仲間はニュースを読めな
いはずで、当然、休みとい

うことを知らなかったわけ
だ。
で、先週の金曜日、夜七
時、市民館の前に四人の仲
間が、夜間学校があるもの
と信じて、市民館が開くの
を待っているという事態に
なった。
その中の一人から伝言が

あった。「いくらニュース
で休みを知らせたからとい
って、読まない人もいるの
だから、やはり、ハリ紙ぐ
らいはしておくべきやで...」
まったくそのとおりで、
手ぬかりであった。お詫び
申し上げます。

なにとぞ、このニュース
が、先週、無駄足をふんだ
仲間の目にふれますように
...この原稿を込めて...

夜間学校ニュースを
読みおわって不用に
なったら
ゴミ箱へ!!

仲間の死

本籍、住所、氏名不詳、
40歳位の男性、身長166セン
チ、面長、せせ型、遺留金
品なし

右の者は、昭和62年2月
7日午前6時33分頃、西成
区萩之茶屋1-10-15喫茶
マコ南側路上にて発見され
たもので、同日午前4時(推定)、同所において死亡したものと思われる(死因不詳検査中)

身柄引取人不明につき、
検視解剖のうえ北斎場にて
火葬に付したの当心当たり
のちは当区福祉事務所まで
申し出て下さい。

建設労働者の賃金、高い伸び

建設、農水、運輸の三省は四日、国や地方公共団体が発注する公共事業に従事する建設労働者の賃金を調べた調査結果をまとめた。それによると、一九八八年十月現在の平均賃金（ボーナス分も含む）は日額一万二千二百一十一円、前年同月比四・三%増で、昭和五十六年以降最も高い伸びとなった。

2月の労働者不足率 前年同月を上回る

建設省まとめ

建設省が四日まとめた二月の建設労働需要調査結果によると、建設現場で必要な型枠工や鉄筋工などの不足率（必要な労働者数に対する確保できなかつた人数の割合）は二・六%と前年同月を〇・二%上回り、こうした技能労働者の人手不足は全国で約十万人に上っている。

地域別では、来春大阪で開催する「花と緑の博覧会」会場の建設が進む近畿地域と、昨年夏の集中豪雨に伴う災害復旧工事が行われた中国地域の不足率が高く、それぞれ四・二%、四・一%となっている。

一九八九年四月五日

毎日新聞

上の新聞記事を読むと、我々が毎日働く現場で、人手が不足しており、賃金も上昇していることが、あらためて確認できる。

また、日雇労働市場としての全国の家賃場に対する関心も、一時的にであり高まっているようにも見える。

さて、二二のところ、夜間学校でしつこく考えていることにそくしていえば、どういうことになるのだろうか。

元気な仲間の中にある声として「釜ヶ崎」といえば、なにかアオカンかとりあげられるが、多くは自分で働いて生活を立てている。建設・土木産業の中で貢献していることにも目をむけて欲しい。そういうものを紹介した。そういう声からすれば、この記事の中に、釜ヶ崎でも人が不足しており、一人当りの就労日数も上昇している、というようなことが

書かれていれば、満足、ということになるのだろうか。

本当か？

記事でかかっていることは、人手が不足していること、ようするに労働力が不足していること、そして、需要と供給のアンバランスから、賃金が上昇していること、簡単にいえば、この二つである。

なんのことはない、たとえば、品不足になって品物の値段があがった、オイルショック時に、トイレットーパーや砂糖が、ロケットといわれ、値段があがったのと似たようなことだ。

「労働者」が注目されているのではなくて、車のエンジンのように働くか、労働力が注目されているだけであって、ようは、不足する労働力の充足と賃金の安定化が問題となっているにすぎない。

ことを、もつとめて欲しいということも、仲間が求めているのは、こんなことなのだろうか。

釜ヶ崎が労働力市場であることは、毎日のセンター、その周辺をみればよく判る。いや自分のことだから、みなくても判るから、毎日毎日、それだけが、労働力を売りに集まり、買手をさがす。

この局面では、それぞれは高売人と同じだ。より有利な条件で売りたいと考えている。そして、現場で労働力をハツキして、金をもらおう。

こういった意味では、金をもらうこと以外に要求することはできない。だが、人間が普通の品物と同じでないことは、売り手と売る品物が一つのものであること、一つの人格の中に統一されて存在していることだ。あたりまえのことだが、このあたり前をよく考えないと、働いて捨てるに抗することはできない。